

清水町地域公共交通計画（案）【概要版】

(1/2)

I 地域公共交通計画の制度概要

「地域公共交通計画」は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく、地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにする地域公共交通のマスターplanです。

行政、交通事業者、町民など、公共交通に係る関係者で協議しながら地域公共交通の将来像を描くことにより、今後の取組の根拠が整理されるとともに、関係者間の連携や協働を図ることができます。



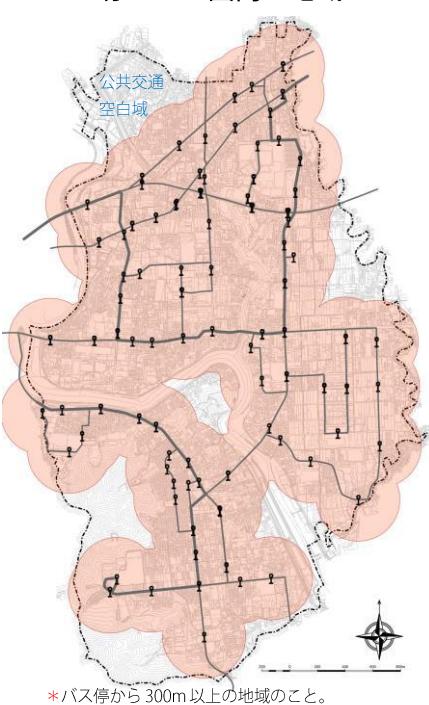
II 暮らしやすさと公共交通の関連性

(1) 暮らしやすさの磨き上げが重要

本町は、豊かな自然環境が身近にあることや、多様な生活利便施設が立地していることなどにより、暮らしやすさが魅力となって、沼津市や三島市など、周辺地域からの転入者が多い町となっています。

今後の人減少社会においても、清水町が居住地として選ばれ、活力を維持するために、暮らしやすさの更なる磨き上げが重要となります。

■ バス停300m圏内の地域



*バス停から300m以上の地域のこと。

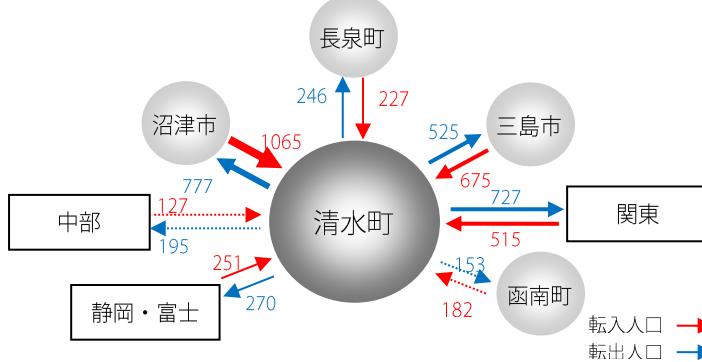
(2) 公共交通は、暮らしやすさの「伸びしろ」

本町は、生活利便施設が充実しており、平坦で町域がコンパクトであること、公共交通路線ネットワークが整っていることから、暮らしやすい環境が整っています。町民の8割以上が「住みやすい」と評価しています。

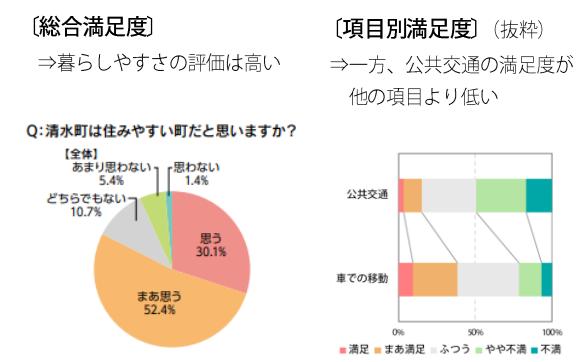
一方で、生活環境の項目別の満足度をみると、公共交通の満足度は、他の項目より低い水準にとどまっています。

このため、暮らしやすさを更に磨き上げるために、公共交通空白域*の解消や、中心性の高い拠点形成など、公共交通に関する課題を解決することが重要となります。

■ 清水町の転出入の状況



■ 町民の生活環境に対する満足度



III 本町における地域公共交通計画

町では、今後人口が減少するなかでも、暮らしやすさを維持し、更に向上させるため、拠点をネットワークでつなぎた都市構造（Reborn City）の実現を掲げています。

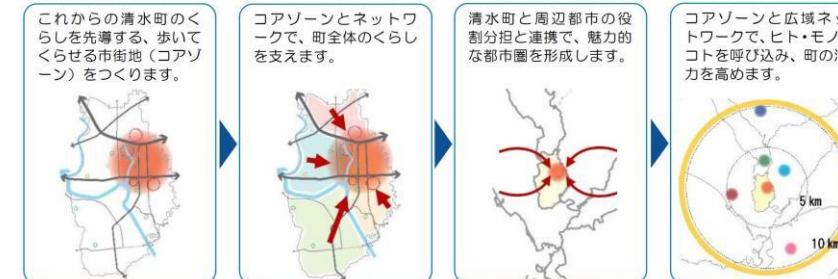
策定する「地域公共交通計画」は、都市計画マスターplanに位置付けた将来都市構造を、公共交通のネットワーク形成によって実現するための計画として活用します。

■ 都市計画マスターplanにおける都市構造の考え方

Reborn City

清水町の県東部地域の ~ 結び目を創る ~

① 大きな結び目とネットワーク



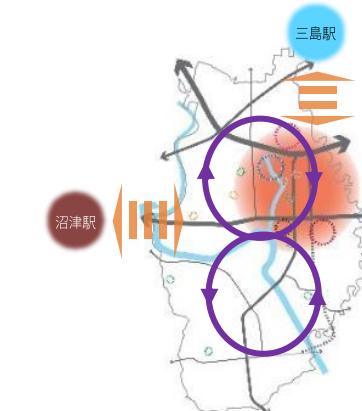
- 町の暮らしを支える拠点を「結び目」として創ります。
- 結び目を「ネットワーク」でつなぎ、交流・一体感・活力を育みます。
- 都市の形を整え直すことで、将来に渡り持続可能な町を創り、「次世代への贈り物」とします。

IV 地域公共交通の基本方針

清水町における計画の使い方と、清水町の特性を踏まえて、次に掲げる方針を定めます。

- ① 都市構造形成・生活利便維持のため、公共交通のネットワークとサービスレベルを向上
- ② まちづくりとの連動により、コアゾーン等の交通結節機能を向上
- ③ 公民や他分野との共創により、町の特性にあった移動手段を確保
- ④ AI等の新技術を研究・導入

①②による将来都市構造の実現イメージ



③公民共創の取組イメージ

④新技術を活用した取組イメージ



- 町内循環バスで、コアゾーン及び主要施設と町内住宅地をつなぐ公共交通ネットワークを形成
→ 路線バスで、コアゾーンと鉄道駅をつなぐ公共交通ネットワークを形成
→ 公共交通ネットワークと併せてコアゾーンを育成

- ↑ 町内幼稚園・保育所園児に対し、県交通安全協会、事業者と共同で、バスの乗り方教室を実施
(県交通安全協会 HP)

- ↑ バスロケーションシステム導入例
バスの現在地情報、時刻表、経路対応する等、総合的な情報提供を実施
(東海バス HP)

V 地域公共交通計画の主要施策

(1) 公共交通空白域の解消

町内のどこからでも公共交通を利用しやすい環境を整備するため、既存の公共交通を補完する移動手段の確保を検討します。

移動手段確保の手法は、既存バスのルート見直し・オンデマンド交通の導入・タクシー料金補助など複数考えられるため、それぞれの手法を比較検討し、実証実験等により、需要を確認しながら適した手法を模索します。

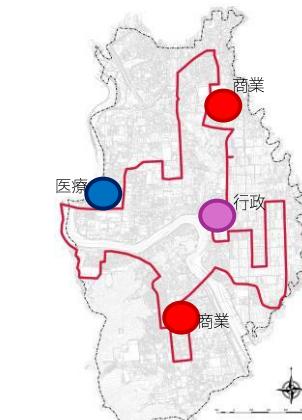
■ 既存交通手段を補完する交通の例



(2) 町内循環バスのサービスレベル向上

町内循環バスの便数やダイヤの改正を含めた運行形態見直しを検討します。運行形態見直しは、利便性の向上と、必要な費用とのバランスを考える必要があるため、実証実験等をとおして、需要と費用とを検証しながら進めます。

■ 町内循環バスの現行経路



(3) 交通結節機能の向上

公共交通の待ち合い環境の改善とともに、ヒト・モノ・コトが集まる拠点となるエリア（コアゾーン）等において交通結節点整備を目指します。

また、公共交通の待ち合い環境の改善のため、公共施設や商業施設を活用して、屋内で公共交通を待てる環境の整備を進めます。

新たな交通結節点の整備については、(都)玉川卸団地線沿線区画整理事業に伴い、町の中心部での新たな土地利用や機能導入の機会と合わせて検討します。

待ち合い環境の整備は、既存の公共施設等で実施可能な取組から順次開始します。

■ コアゾーンと交通ネットワーク



■ 屋内のバス待ち空間整備例



VI 計画の評価指標

計画の達成状況を評価するため、次に掲げる指標を定めます。

また、指標は目標指標と成果指標を設定し、それぞれ事業の実施状況と目的の達成度合いを評価します。

■ 計画の指標

種類	計画の基本方針	指標	現況値	目標値
目標指標	① 公共交通ネットワークとサービスレベルの向上 ② 交通結節機能の向上 ③ 公民や、他分野の連携により、町の特性に合った移動手段を確保 ④ AI等の新技術を研究・導入	公共交通の利用者数の維持	114.4 [人/日]	現況以上
		公共交通空白域 ^{*1} 解消	28% [面積]	現況以下
		主要路線バスのサービス水準維持	1 [本/時]以上	現状維持 ^{*2}
		屋内にバス待ち空間のある施設設置数	3 延所	4 延所以上
成果指標	③ 公民や、他分野の連携により、町の特性に合った移動手段を確保	公民連携による情報提供等の取組件数	—	1 件 ^{*3}
	④ AI等の新技術を研究・導入	新技術に係る取組件数	—	1 件
	本計画に位置付ける取組と併せて、立地適正化計画等の取組による「暮らしやすさの向上」の達成度合いを測る	移動に不便を感じる町民の割合	43.5 [%]	現況以下
		人口社会増加率	-0.08 [%/年]	維持

*1 バス停までの距離が300m以上の地域

*2 バスの運転手不足、まちづくり事業の進展等、社会情勢も含めて評価し、必要に応じて指標を見直す

*3 公民連携に係る新しい取組の目標件数とし、その他の情報提供等は、既往の取組継続を含め、関係主体ごとに実施

* ① 町民等 ② 民間施設管理者 ③ 道路管理者 ④ 区画整理組合等 ⑤ 不動産事業者等

【参考】施策の全体像

■ 計画の方針・施策と具体事業の関係、及び実施期間と実施主体

施策	具体的な事業	期間					実施主体		
		R8	R9	R10	R11	R12	町	交通事業者	他*
方針① 都市構造形成・生活利便性維持のため、公共交通ネットワークとサービスレベルを向上									
① 公共交通の空白域を解消	AIオンデマンド交通実証実験	●	●	●	●	●	○		
② 町内循環バスの利便性向上	町内循環バス実証実験	●	●	●	●	●	○		
③ 町内外を結ぶ路線バスのサービス水準維持	国等の補助金を活用	●	●	●	●	●	○		
④ 公共交通の継続的な改善	町民モニター、アンケート調査を実施	●	●	●	●	●	○		
方針② まちづくりとの連動により、コアゾーン等の交通結節機能を向上									
① 交通結節点におけるバス待合環境の改善	主要な公益施設・商業施設等へのバス待合空間の設置 道路環境を踏まえた、バス停へのベンチ・屋根等の設置	●	●	●	●	●	○	○	②
② 新たな交通結節点の形成	(都)玉川卸団地線沿線区画整理事業に併せて、バス路線の見直し及びバスターミナルの設置	●	●	●	●	●	○	○	④
③ 交通結節機能の向上	バス・電車の乗換円滑化等に向けた、バスダイヤ見直し パーク&バスライド、サイクル&バスライドを見込んだ対応	●	●	●	●	●	○	○	②
方針③ 公民や他分野との共創により、町の特性に合った移動手段を確保									
① 町内循環バス・路線バスの利用促進	パンフレット・ホームページ・広報等による情報提供 乗り方教室やバスの日など、公共交通のイベント開催 他分野連携による公共交通の需要創出 移動手段の変容を促すモビリティマネジメントの取組	●	●	●	●	●	○	○	①
② バス・タクシー運転手確保に向けた行政支援	広報・説明会開催等に係る事業者への協力 住政策等との連携による運転手確保（空家活用など）	●	●	●	●	●	○	○	
③ 公共交通を補完する、多様な交通モードの確保	高齢者及び障がい者へのタクシーチケットの配布継続 シェアサイクル・ライドシェア等に係る取組の検討	●	●	●	●	●	○	○	
④ 環境に配慮したまちづくりの推進	立地適正化計画との連携による、バス利用圏域及びバス路線沿線への都市機能及び居住の誘導 町内循環バス車両のEV化	●	●	●	●	●	○	○	⑤
方針④ AI等の新技術を研究・導入									
① AIを活用した公共交通の改善	AIオンデマンド交通実証実験（再掲）	●	●	●	●	●	○	○	
② 他自治体の先進事例を研究	他自治体の先進事例を研究	●	●	●	●	●	○		
③ 情報提供や予約支払いなどに係る新技术の研究・検討	町内循環バスへのバスロケーションシステム導入	●	●	●	●	●	○		